

授業科目名称 : 宿泊業論

授業コード : 24606

授業科目英文名称 : Hotel Industry

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	2	2	選択必修	
担当教員				
落合 和昭（実務経験のある教員）				
展開方法	講義			
ナンバリング	CB202			
添付ファイル				
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標		評価手段・方法	評価比率
専門力	宿泊業の発展の歴史を振り返ることにより現在に至る過程を理解し、現在も多様化し続ける宿泊業界の構造、特性、更には今後の進化を展望することができる。		授業内確認テスト 授業貢献	40% 20%
情報収集、分析力	常に宿泊業に関心を持ち、新聞、雑誌、その他メディアにある関連記事・ニュースについて理解し、議論することができる。		レポート	20%
コミュニケーション力	積極的に授業に参加し、課題を掘り下げて考える習慣を持ち、自分の考えをクラスメートと共有することができる。		授業貢献	10%
協働・課題解決力	授業中に適宜実施されるグループワークにおいて、グループにおける自分の役割を認識し、課題解決に向けた貢献をすることができる。		授業貢献	10%
多様性理解力				
出席			受験要件	
合計			100%	

授業のねらい	観光立国を目指す我が国の基本方針において、宿泊業は、旅行業、運輸業と共に将来の基幹産業として位置づけられる。本講座は、その宿泊業（主にホテル業）をその発展史から先端の事例まで、多方面から総合的に理解することをねらいとする。		
アクティブラーニングの類型	② ④ ⑤ ⑥ ⑦		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	授業貢献 : 40% 質問、発言などの回数、グループワーク、プレゼンテーションなどを観察法で評価。 確認テスト : 40% 持ち込み禁止の論述式で、主として宿泊業の産業特性に対する理解度を問う。 レポート : 20% 論旨・形式要件、およびプレゼンテーションをもとに評価。採点后、全体の講評を行う。 尚、テスト、課題・レポートなどへのフィードバックは、授業中あるいはポートフォリオにおいて個別におこなう。		
授業概要	担当教員のホテル運営に関する経験・知見による実践的な授業である。第1段階：宿泊業発展史を学ぶ / 第2段階：宿泊業の多様な形態を理解する / 第3段階：世界の宿泊業の現状を理解する / 第4段階：宿泊業における感染症収束後の在り方を考察する / 第5段階：情報システムの進化と宿泊業の未来について考察する。また、授業中に適宜課題が示され、質疑応答やグループワーク等により理解を深める。授業の理解度はアンケートなどにより確認する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。		
教科書・参考書・指定図書	教科書 : 特に指定しない。 参考書 : 授業の中で適時指示する。 指定図書 : 「星野リゾートの教科書」中沢康彦 (著)		
授業外における学修及び学生に期待すること	1. 本講座を履修する学生は、「ホテル・ブライダルオペレーション」の履修が望ましい。2. 将来ホテル業界で幹部として活躍したいと考えている学生は、「ホテルビジネス実務エキスパート」の履修を奨める。3. 宿泊業に関する日々のニュース、図書館にあるホテル産業に関する定期刊行物などを通じて、最新の話題について理解する努力をする		
授業計画	回	テーマ	授業の内容
	1	オリエンテーション	講義内容、講義の進め方、試験方法などを説明する。
	2	宿泊業の概要	我が国における宿泊業の実態 さまざまなホテルの業態
	3	近代ホテル産業の発達史Ⅰ	ヨーロッパ：セザール・リッツとエスコフィエが幕を開いた近代ホテルの歴史。
	4	近代ホテル産業の発達史Ⅱ	アメリカ：スタットラー、ヒルトンによる巨大ホテルチェーンの発達史を学ぶ。
	5	近代ホテル産業の発達史Ⅲ	日本：120年にわたる帝国ホテルの歴史を通じて、我が国の近代ホテルの発達史を理解する。
	6	グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデルⅠ	ホテルチェーン会社の基本的な仕組みを学ぶ。 IHG（インターコンチネンタルホテルグループ）のホテルブランド名と特徴を調べる。

	7	グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデルⅡ	マネジメント契約・フランチャイズ契約の基本的な仕組みを学ぶ。	フランチャイズ方式で事業展開している業態を5つ考えておく。
	8	グローバル・ホテルチェーンのビジネスモデルⅢ	世界の巨大ホテルチェーン各社の特徴を学ぶ。	ヒルトンの持つホテルブランド名とその特徴を調べて列記する。
	9	ビジネスホテルチェーン	多様化し進化するビジネスホテルの仕組みと経営戦略を学ぶ。	「アップパービジネスホテル」の意味を調べておく
	10	ホテル業の基本的な事業構造Ⅰ	労働集約型サービス産業、不動産業、製造業など、ホテル業の多面的な特性を学ぶ。	ホテルの「不動産業」的側面とはなにか列記してみる。
	11	ホテル業の基本的な事業構造Ⅱ	ホテルの収支構造について学ぶ。	「ユニフォームシステム」の意味をネットで調べておく。
	12	ホテル業の基本的な事業構造Ⅲ	ホテル組織の各部門がお互いに緊密に連携することによって、初めてお客様は満足していただけるということを学ぶ。	チェックインしたお客様が1泊して朝食後にチェックアウトした場合、接するスタッフの種類を考えておく。
	13	ホテル組織における人材開発	ホテルにおける人材開発の実例を参考としながら、ホスピタリティの実践者である従業員の人材開発手法について学ぶ。	関連するウェブサイトから現状を把握しておく。
	14	総括	これまでの講義内容を総括する。	過去の資料を参照して、自身の考えや疑問を整理しておく。
	15	随意試験	論述式筆記試験	試験の準備をする。